

# 畠山哲雄

Tetsuo Hatakeyama



『運炭機と炭住街』1956年 畠山哲雄

夕張地域史研究資料調査室 企画

## 時を超えて—夕張・一滴の風景—

2010.8/10(火)～8/22(日) ※8/16(月) 休館日

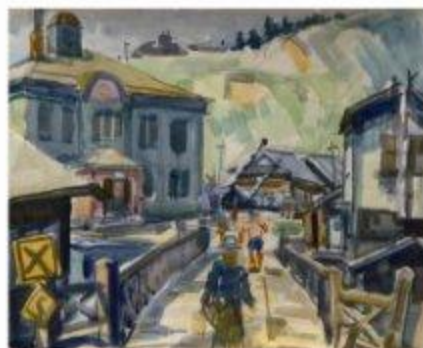
主催：夕張地域史研究資料調査室/会場：夕張市美術館市民ギャラリー ※観覧無料

お問い合わせ先：夕張市美術館 TEL. 0123-52-0930

萩原義弘  
Yoshihiro Hagiwara



『運炭機と炭住街』の現在、夕張市社光 萩原義弘



『公共橋と警察署』1940年代 畠山哲雄



『冬の遠炭場』1956年 畠山哲雄



『清水沢ダム』1987年 畠山哲雄

## 畠山が描いた“過去”の夕張、萩原が写す夕張の“現在”



夕張市本町 萩原義弘



夕張市福住 萩原義弘



清水沢宮前町 萩原義弘

今も変容する北海道「夕張」の風景。旧炭産地域の産業構造と社会・経済変動が大きかった分、目に映るその地域の変化は集落の変容として顕在化する。地域が自ら望んで変わることを目指した自発性と、変わることを強いられた他動性。

時の経過とともに人も地域も変わりゆく必然性はあるとはいえ、その変化は風景を共有する記憶に悲しさや諦めを伴いつつ、新しい地域と風景への期待をも増幅させる。

生涯を夕張の風景を描き続け、多数の作品を遺した画家畠山哲雄。夕張新炭鉱の災害後に夕張の風景を撮り続け、今年の東川賞特別賞を受賞した写真家萩原義弘。世代は離れていても、二人の接点は1980年代、共に夕張風景を見ること、見つけることから始まっている。その二人に共通するのは夕張の持つ独自の風景への視点と、変容の中に失われてはならない夕張の原風景を、それぞれ絵画、写真と言う表現の手法は異なっている、作品の中に心象の記録として捉えているところにある。今回、作品を通して変容した夕張の風景を地域の記録という視点で改めて見直し、畠山哲雄へのオマージュとしての「記憶と記録」を融合するささやかな試みとしたい。



夕張市美術館 〒068-0411 北海道夕張市旭町 4-3  
YUBARI MUSEUM OF ART TEL 0123-52-0930

観覧料: 大人 700円 高校生 500円 小中学生 300円  
団体料金: 大人 600円 高校生 400円 小中学生 250円

※団体は15名様より

※夕張市民は通常の観覧料が半額になります。

※シニアの市民割りはございません。

■市民ギャラリーは観覧無料

